

あさがお



花言葉：「愛情の絆」「堅い結束」

特集

座間
総合病院

海老名
総合病院

救命救急センター
猪口顧問の着任のお知らせ
超音波内視鏡検査を開始

人工関節・リウマチセンターのご紹介

AREA
TOPIC

地域医療連携推進法人
「さがみメディカルパートナーズ」を設立

アンケートに
お答えいただいた方の中から

クオカード
プレゼント



抽選で10名様

詳しくは裏面へ！

座間総合病院

人員体制と機器の充実化で地域医療への貢献度高まる



東埼玉総合病院の消化器内科は昨年に常勤医が増えて3名体制に。それと同時に超音波内視鏡を導入したことで消化器疾患の診断と治療の質が向上したほか、近隣の病院から患者さんを紹介される機会も増えました。今年5月には常勤医がさらに増えて5名になり、医療圏の拡大など展望は広がります。

常勤医が3名に増えて急患対応や検査数も増

当院の消化器内科は、常勤医3名、非常勤医8名の計11名の体制で診療を行ってきました。私以外の常勤医が入職したのは昨年の4月です。それまでは私一人で診療の中軸を担っていましたから、物理的に不可能なことが往々にしてありました。限られた人材の中、私が内視鏡の手術を行う一方、非常勤

の先生に検査をお願いするなど、なるべく診療がスムーズに進むようには努めてきました。しかしながら、どうしてもマンパワーが足りず、手術中に急患を断らないといけないこともありました。

常勤医が3名になったことで、このような人的問題が解決され、検査数も大幅に増えました。私が入職した当時に比べると、胃と大腸の内視鏡の検査の数は2〜3倍になり、新規入院患者数も1.5倍に増えました。

常勤医3名は、消化器領域全般に対応しますが、三関医師は胆膵系、荒井医師は消化器官、私は消化管・炎症性腸疾患を専門としています。早期がんの内視鏡治療(ESD)を積極的に施行しています。

このように、昨年から人的体制が厚くなったことで地域の患者さんへの貢献度が高まったほか、当院への入職を検討している医師への安心感も生まれやすくなったのではないかと思います。多くの医師にとって、常勤医が1名の病院に入職するのは勇気が要ることでしょう。消化器内科は今年の4月に1名、5月にさらにもう1名の医師が加わり、5名の体制になりました。急激に人員が増えていく背景には、外部の医師の当科に対する印象の変化が関係しているのではないのでしょうか。

結する意味でも有用だと実感しています。超音波内視鏡を活用した検査数は現在、大病院とほぼ同等の水準です。

現在、主に三関先生が超音波内視鏡の検査を担当していますが、彼はこの分野のスペシャリストであり、日本消化器内視鏡学会や日本胆道学会、日本消化管学会胃腸科の指導医です。当院で行った生検陽性率においても良好な成績が出ています。

常勤医5名体制が間近医療圏拡大を図りたい

5月に常勤医が5名の体制になり、展望はさらに広がります。常勤医が私一人だった時は患者さんなるべく断らないことをテーマにしつつ、それが叶わないことがありましたが、3名になることでこの問題がほぼ解消されました。そして次の一手としては、医療圏の拡大を図りたいと考えています。今までは地域の患者さんに特化して対応していましたが、胃癌と大腸癌の内視鏡手術、超音波内視鏡検査やそれに伴う手術という当科の特徴をより多くの医療関係者に知っていただき、近隣の医療機関が患者さんを遠方に送らなくて済むようにしたいと考えています。

既に茨城西南医療センター病院等の地域の中心となる病院からも患者さんを紹介されていますが、今後は当院があ

る幸手市に隣接する中核病院からの相談にも対応していきたいと考えています。

特殊な治療の患者さんが集まることで地域医療の充実化に貢献できるだけでなく、働く医師のやりがいの創出にもつながるのではないのでしょうか。当科では難病である潰瘍性大腸炎やクローン病の患者さんも外来で100人ほど診ており、この患者数は大病院と同程度です。今年度から入職してきた医師も、特殊な疾患の治療経験を積めるでしょう。

チーム医療を徹底風通し良い診療科をめざす

私は、消化器内科を風通しの良い場にしたいと考えています。そのためにも、診療・治療方針の大筋はカンファレンスなどの機会に皆で話し合い、統一しています。統一感がなければ医師の指示を受ける看護師などのコメディカルが困ってしまいますから、余計なストレスを与えないことも配慮しています。

入職した2010年から、消化器内科の体制を何とか固めていきたいと診療を続けてきました。そうした私の想いが今、少しずつ形になってきているところですが、結束力の高いチームを築けるよう、今後も力を尽くしていきたいと考えています。

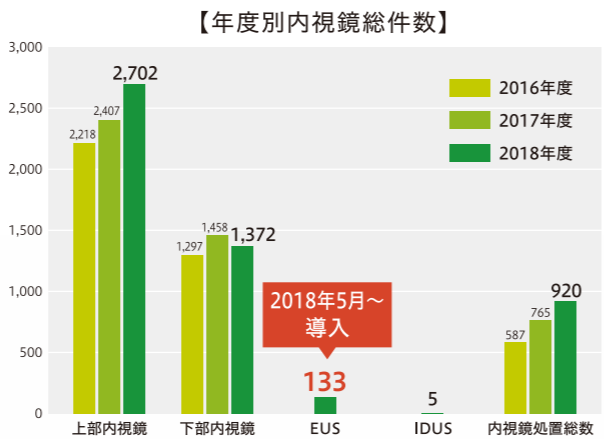
患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。
東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5

消化器内科 消化器内科長、内視鏡室室長

吉田 正史 Masafumi Yoshida

2011年に入職、東埼玉総合病院において「消化器内科」の立ち上げを経験。消化器全般を診療。

【資格】 日本消化器病学会 専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本内科学会 認定内科医
厚生労働省 臨床研修指導医



超音波内視鏡を導入検査数は大病院並みに

消化器内科におけるトピックスとしては、昨年の5月に超音波内視鏡(EUS)を導入したことが挙げられます。今まではスタッフ数とランニングコストの関係から取り入れられなかったわけですが、常勤医が増えたことで導入にこぎつけることができました。

消化器内科の医師であれば、その有用性はご承知のことと思いますが、超音波内視鏡はさまざまな面で効果を発揮します。膵臓癌などの消化器疾患を早期に見つけやすくなるほか、オペの切除範囲を決めやすくなり、また胃や大腸の粘膜内病変の鑑別もしやすくなります。

検査だけではなく、できる処置も増えます。膵臓癌の組織検査や、腹腔内のリンパ節に薬を注入することで膵臓癌の疼痛コントロールも可能です。ERCPで不可能な処置、例えば胆管の出口に癌がある場合でも十二指腸から直にアプローチできます。

超音波内視鏡というモダリティを得て検査や処置の選択肢が増えたことで、大病院院をご紹介していた患者さんの検査、治療を完結できるようになり、また逆に、近くの中核病院からも患者さんをご紹介されることも増えました。近隣で超音波内視鏡を保有する医療機関は当院のみなので、地域の中で医療を完

座間総合病院 人工関節・リウマチセンターのご紹介

人工関節・リウマチセンターは、日本初の人工関節専門施設として、1997年4月、海老名総合病院(神奈川県)に開設しました。2016年4月、座間総合病院の開院を機に、海老名総合病院から座間総合病院へと移転し、新たなスタートを切りました。

座間総合病院は、急性期病棟・回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟など、各フロアに異なった機能の病床を有しており、患者さんのニーズに合わせた入院期間を提供することが可能です。

当センターでは、人工股関節や人工膝関節置換術をはじめ、術後のリハビリまでの人工関節に関するトータルな治療を提供しています。また、リウマチ外来も常設しており、関節リウマチの診断から治療に対応しています。

股関節手術においては、2011年からはMIS手術(最小侵襲手術)を導入し、現在では全例に対して行っています。また、難易度の高い再置換術や、両側同時人工股関節置換術も積極的に行っています。



膝関節手術においては、最新の機種を使用し、短時間で手術を行っています。

手術件数は、センター開設からの累積で、股関節が6000件、膝関節についても2000件を超え、年々、増加傾向にあります。人工関節・リウマチセンターでは、これまでの実績を活かし、これからも様々な病状・背景の患者様に幅広く対応してまいります。



	西病棟	東病棟	
6F	医療療養病棟(39床)	医療療養病棟(39床)	サテライトリハビリ室
5F	地域包括ケア病棟(45床)	急性期病棟(45床)	
4F	急性期病棟(43床)	急性期病棟(43床)	
3F	回復期リハビリテーション病棟(39床)	回復期リハビリテーション病棟(51床)	
2F	外科リハビリ室・手術室(4室) / 中央材料室		
1F	一般外来・救急外来 / 検査・放射線 医療福祉相談(患者サポートセンター) / 売店		

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、患者サポートセンターまでご連絡ください。
座間総合病院 患者サポートセンター TEL 046-251-3700(直通) 神奈川県座間市相武台1-50-1

海老名総合病院 救命救急センター 猪口顧問着任のお知らせ

今春、東海大学付属病院を退職し、このたび縁あって、海老名総合病院の救命救急センター顧問 兼 病院長補佐を拝命いたしました。

海老名総合病院が2017年4月に救命救急センターの指定を受けてから2年が経ちました。救急車の台数も、重症の患者さんも増加傾向にあり、順調な滑り出しではあると思いますが、3次救急医療機関となった今、生命にかかわる患者さんを迅速に受け入れる体制の整備が必要です。「断らない救急」の実現や病床運営の円滑化には、入口となる救急科だけでなく、他診療科や看護部など、病院全体の更なる協力体制が必要です。

間もなく数年のうちには、病院の増改築も控えています。増改築を機に、救命救急センターのハード面を整えるのはもちろんのこと、同じ法人グループの座間総合病院(神奈川県座間市)と連携しながら、病院長とともに神奈川県県央2次医療圏唯一の救命救急センターとしての体制強化を進めていきたいと考えています。今後とも一層のご協力をご支援をたまわりますよう、心よりお願い申し上げます。



救命救急センター顧問、病院長補佐

猪口 貞樹 Sadaki Inokuchi

東海大学医学部付属病院に臨床研修医として入職後、長年、救急医療に携わる。高度救命救急センター長、病院長を歴任後、2019年4月より海老名総合病院に入職。

海老名総合病院 超音波内視鏡検査を開始

消化器内科では、2019年4月より超音波内視鏡検査(EUS)を開始いたしました。膵臓、胆嚢・胆管、上部消化管(食道、胃、十二指腸)、リンパ節など様々な臓器の精密検査が可能です。

また超音波内視鏡下穿刺(EUS-FNA)により、粘膜下腫瘍や消化管の外に出来た腫瘍に針を刺し組織を採取して顕微鏡で見る検査(病理検査)を行います。これによりエコーやCT画像だけでなく直接組織を見ることができ、より一層精密な検査・評価が行えます。

これからも早期発見と確定診断に努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。



これらの患者さんについてご相談ください。

膵臓の病気	膵癌を含む膵腫瘍、膵嚢胞性病変、急性・慢性膵炎、膵管拡張など
胆嚢・胆管の病気	胆嚢・胆管腫瘍、総胆管結石、胆管拡張など
消化管の病気	食道・胃などの粘膜下腫瘍など
その他の病気	縦隔・胸腔・腹腔内リンパ節腫大、副腎腫瘍など

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域連携課までご連絡ください。
海老名総合病院 地域連携課 TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320

外来化学療法に加え人員も増 外科の役割を全うしたい



下田メディカルセンターの外科は今年4月に常勤医が1名加わったことで外来日を増やすことができました。また、麻酔を行える医師も入職したため、緊急手術の要望に応えられる可能性も高まりました。昨年の8月には外来化学療法室もスタートし、運用は概ね順調です。当院は引き続き、救急・悪性疾患にも対応していきます。

地域の患者さんのため 身近な外科疾患にも対応

当院の外科は今まで、常勤医2名体制で診療してきましたが、本年4月に新たに消化器を専門とする常勤医1名が加わりました。回復期リハビリテーション病棟での診療と兼務しているため、純粋に外科の常勤医が3名体制になったわけではありませんが、マンパワーが増えた手応えを感じています。これまでは閉じていた手術日である水曜日の外来を開けることで、平日

全ての日に外科領域に関わる外来診療を行えるようになり、患者さんの利便性もやや増したのではないかと考えています。

手術における体制も変わりつつあります。緊急手術においては、外科医に限れば2名いれば行えますが、重要なのは麻酔科医がいるかどうか。当院は以前から外部の医療機関の応援を受けて麻酔科医を派遣してもらっていますが、この4月に麻酔科標榜医の資格を持つ医師が内科と兼務する形で入職したことで、以前より緊急手術に応えられる体制が整いつつあります。

当科では在籍する医師の専門性から、特に腹部の病気の診断と治療を得意としており、腹部ヘルニアや胆道結石、肛門疾患に加え、急性虫垂炎や腸閉塞などの一般的な良性疾患のほか、胃がん・大腸がんなどの消化器がんや乳がんといった悪性疾患にも対応しています。消化器がんは検査の発達により、予防と早期発見を図りやすくなり、また医療機関の機能分化が進んでいることもあって地方病院の外科は全体的に縮小傾向にあるように感じますが、当院としては、今まで通り救急疾患や悪性疾患を含めて対応していく考えです。

仮に今後、がんなど重い病気に對する手術にお応えする必要性が減っていったとしても、外科的なコモンディーズに対応する医療機関が近くにあることで、地域の患者さんは安心していただけるのではないのでしょうか。

化学療法の外来化により 患者さんの手続き負担が軽減

昨年8月から外来化学療法をスタートさせました。当院3階にある回復期リハビリテーション病棟の一部を化学療法室として切り替えて、毎週月曜日と木曜日に開いています。看護師は4名で、うち3名はこれまでに抗がん剤治療の看護経験があり、1名は感染管理認定看護師です。4名とも看護歴30年に及ぶベテランで、信頼のおけるスタッフです。

外来化学療法室を始めた理由は、患者さんの負担軽減と県からの要請にあります。化学療法を始めた当初は、外来処置室で行っていましたが、つまり、輸血をする患者さんや大腸内視鏡検査の準備のために下剤を飲んでいる患者さんなどがある中でがん患者さんの抗がん剤の投与も行っていただけで、これは感染リスクや患者さんへの心的負担を考慮して良くないとの観点から、後に「日帰り入院」での治療に切り替えました。

しかし、それでも課題は残りました。外科病棟を使うようになったことで感染リスクは減ったわけですが、患者さんからすると入院手続きが外来に比べて煩雑であり、また入院病床を使うため医療費が外来の場合よりも高くなってしまう問題がありました。このような課題のある中で、周辺地域において外来で抗がん剤治療を行える医療機関が少なかった現状を変えたいと、県から要請を受けた次第です。

開設に当たっては看護師たちが静岡県立静岡がんセンターや伊東市民病院に足を運び、運用ルールなど参考にさせていただきました。開設から今年3月まで、1日当たりの件数はまだ少ないものの継続して治療が行えており、少しずつ実績を積んでいます。静岡県賀茂医療圏の人口推移からすれば、患者さんが今後大幅に増えることは考えにくいわけですが、地域の患者さんにとっては、化学療法を受けるために大病院に1時間以上をかけて通院するという手間が省けるため、当院の存在意義を確かめられる取り組みだと考えています。また、静岡がんセンターなどから終末期の患者さんも一般病床で受け入れており、今後も積極的に引き受けたいと当院の存在を示したいと考えています。

近隣の医療機関と連携し 地域完結型医療をめざす

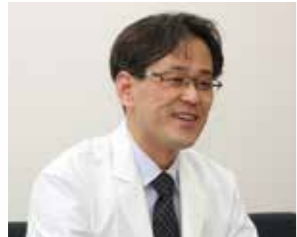
今後さらに高まる在宅医療のニーズを考慮して、当院では今年から在宅医療を行う近隣の医療機関とのネットワークづくりに取り組んでいます。これは、平常時に患者さんのかかりつけ医である近隣開業医の先生方と連携し、夜間や土日祝日など開業医の先生方の対応が難しい場合に、患者さんの要請に応じて当院が後方支援病院としてカバーする、というもので、このネットワークを通じて地域全体で患者さんを支える機能をより高めていきたいと考えています。また、今後は当院自体も在宅医療に取り組

んでいくことも視野に入れていきます。

当院は急性期医療を軸として、回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟の運営により、骨折手術後などの患者さんを回復期リハビリテーション病棟で、急性期を脱したものの回復期リハの対象疾患ではない方を地域包括ケア病棟で受け入れて在宅復帰をサポートしていきます。患者さんがご自宅に帰ってからも外来診療を通してフォローする一方で、当院から少し離れたところに住んでいる方に対しては近隣の開業医の先生方に御紹介して支えていただくといった形で、近隣医療機関と連携し地域完結型の医療を行う事が可能となっています。近隣の先生方とは以前から3カ月に1度、「メディカルイブニングセミナー」と題して、臨床にかかわる専門家を招いての講演会と懇親会を開いています。今度もこういった交流を通して、顔の見える関係を築いていきたいと考えています。

患者様のご紹介に関しましてご不明な点は、地域医療連携室までご連絡ください。

下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市6-4-10



副院長、外科医
伊藤 和幸 Kazuyuki Ito

2013年に入職、下田メディカルセンターにおいて消化器外科全般を診療。2017年より副院長に就任。

【資格】 日本外科学会 外科専門医
日本消化器病学会 専門医
日本消化器内視鏡学会 専門医
検診マンモグラフィ読影認定医



外来化学療法室

地域医療連携推進法人

「さがみメディカルパートナーズ」を設立

～連携以上、統合未満のアライアンス～

JMAグループ神奈川地区では、県央医療圏内の医療法人社団神愛会(オアシス湘南病院)、医療法人博清会(海老名田島クリニック)とともに、2019年4月1日に神奈川県での認可を受け、県内初、全国でも数少ない民間施設により構成された地域医療連携推進法人「さがみメディカルパートナーズ」の活動を開始しました。

昨今、地域医療構想の中でも示されているように、神奈川県二次医療圏における「がん」の医療構想区域内での完結率は低迷しており、医療圏外への患者流出が顕著となっています。その中で、さがみメディカルパートナーズでは参加病院・施設の強みや特色を活かしながら連携し、がん疾患に対する診療体制を強化することで、県央医療圏内での入院医療の完結率を向上させることを一つの目的としています。また施設経営の側面でも、地域医療連携推進法人の枠組みにより、スケールメリットが期待できる事業や、経営上有用となる取り組みを推進し、医療・介護施設間での「連携以上、統合未満」の関係性構築を目指します。医療圏内の限りあるリソースを最大限活かしながら、将来にわたって持続可能な医療・介護サービスの提供により、地域に貢献していきたいと考えています。



代表理事：服部 智任
(海老名総合病院 病院長)

地域医療連携推進法人 さがみメディカルパートナーズ	
代表理事：服部 智任(海老名総合病院 病院長) 〒243-0433 神奈川県海老名市河原口1519	
医療連携 推進区域	神奈川県厚木市、海老名市、 座間市、綾瀬市、大和市、 愛川町、清川村
参加法人 施設 (2019年4月時点)	5法人、全15施設・事業所 ■ 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院、座間総合病院、 ほか5施設・事業所 ■ 医療法人社団静岡メディカルアライアンス 今里クリニック ■ 社会福祉法人ケアネット 特別養護老人ホーム4施設 ■ 医療法人社団神愛会 オアシス湘南病院、ほほえみケアネット ■ 医療法人博清会 海老名田島クリニック
主な連携 推進業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 医薬品、材料の共同購買 ● 設備共同利用 ● 患者・利用者の送迎一元化 ● 職員教育・育成の共同化および職員間交流 ● 二次医療圏内での病床の効率的運用 ● 給食(配食)センター化(業務委託型)

広報誌「あさがお」アンケート

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様にクオカードをお贈りいたします。ぜひご応募ください。

- Q1. 今号の感想を教えてください。(選択肢)
- Q2. どの記事に興味を持ちましたか?(選択肢)
- Q3. JMAグループへの理解は深まりましたか?(選択肢)
- Q4. どのような内容が知りたいですか?(自由記入)
- Q5. その他、ご意見ご感想をお聞かせください。(自由記入)

応募方法 以下URLのフォームからアンケートにお答えください。
また、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。

受付期間 2019年5月20日(月)～6月30日(日)

URL <https://goo.gl/DMVGo2>

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

ケータイ・スマホの方は
こちらからアクセス!

